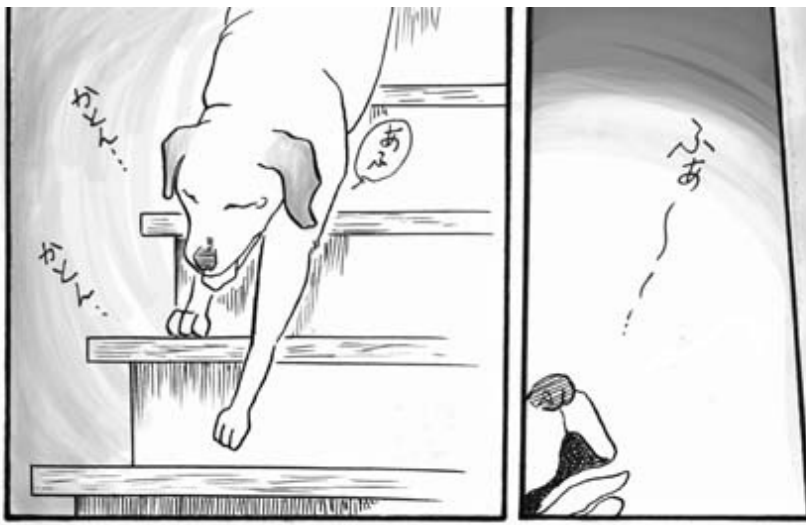




あな
はら
ん
ん

2冊め

風斗碧





ん……

あーにーき
起きて！



あーシャウラ
おはよう

おはよう！

何でも毎度
家の中で
行き倒れに
なるんだよ



んー

もうこの時期
ベットで寝ない
と風邪引くよ

何読んでたの

『猿蓑』

……ない？

ん……



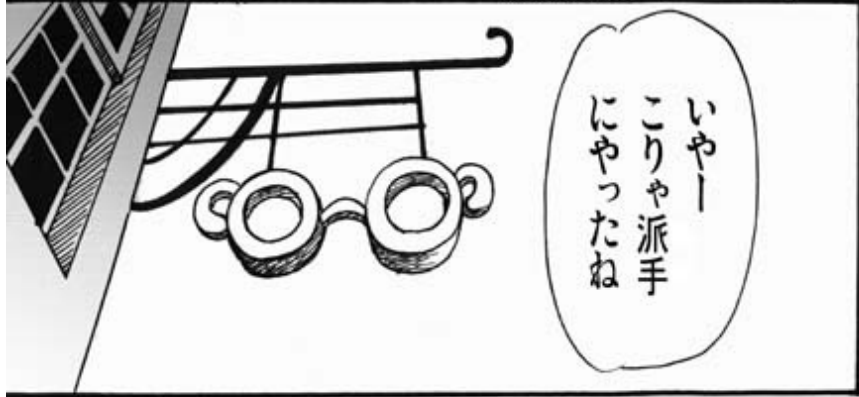


うん
よろしくー

.....



兄貴!
眼鏡修理に
出してくるぜ



いやー
こりゃ派手に
やったね



でもここまで
壊れてると
本人が来てくれ
なくっちゃあ
細かい調整は
出来ねえよ

形はね

直ります?



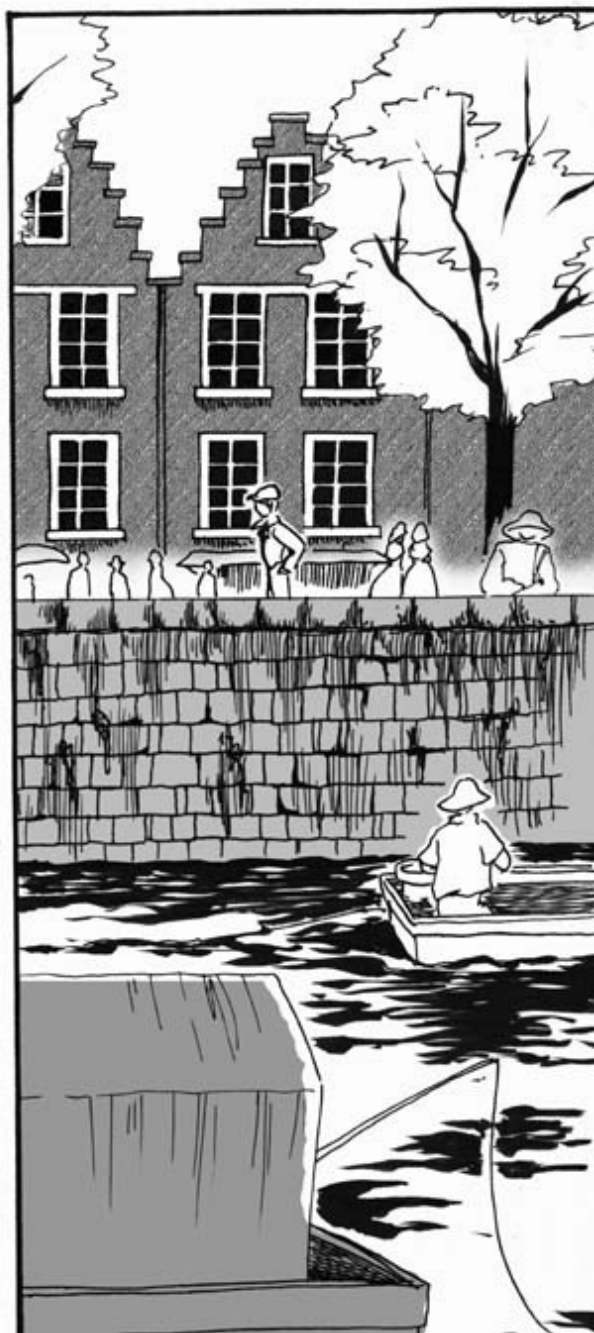
あいよ



半端な仕事は
しない主義でね



この場では?





兄貴 眼鏡
やっぱり本人
じゃないと
駄目だって

そうか



あの女の子が
カラを気に入ってね
じゃれているんだよ

なに？



始めちゃおうか
読み語り

じゃー



後で行く
せっかく場が
温まっているのに
もったいないだろ

わはははは
あははは



ええ？

えっ
眼鏡屋は？



うん

俺が店番
してるから



…場って
言ったって

天気が良くて
いい本があって

人生の一冊に
出会うには
この時を置いて
他にない



呼び込み
任せだよ

うん!



そういう場
のことだよ









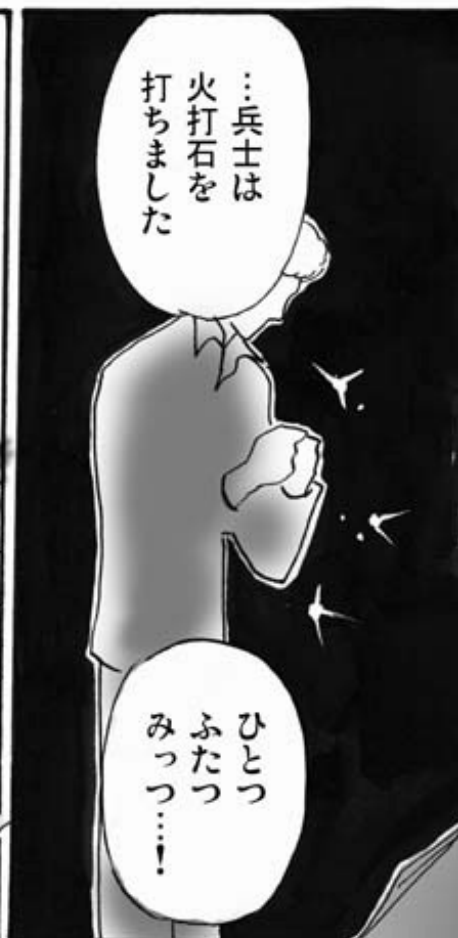


…町の外には
大きな首吊り台
が立ててあって

その周りには
兵士たちと
何十万という
人たちが
並んでいました

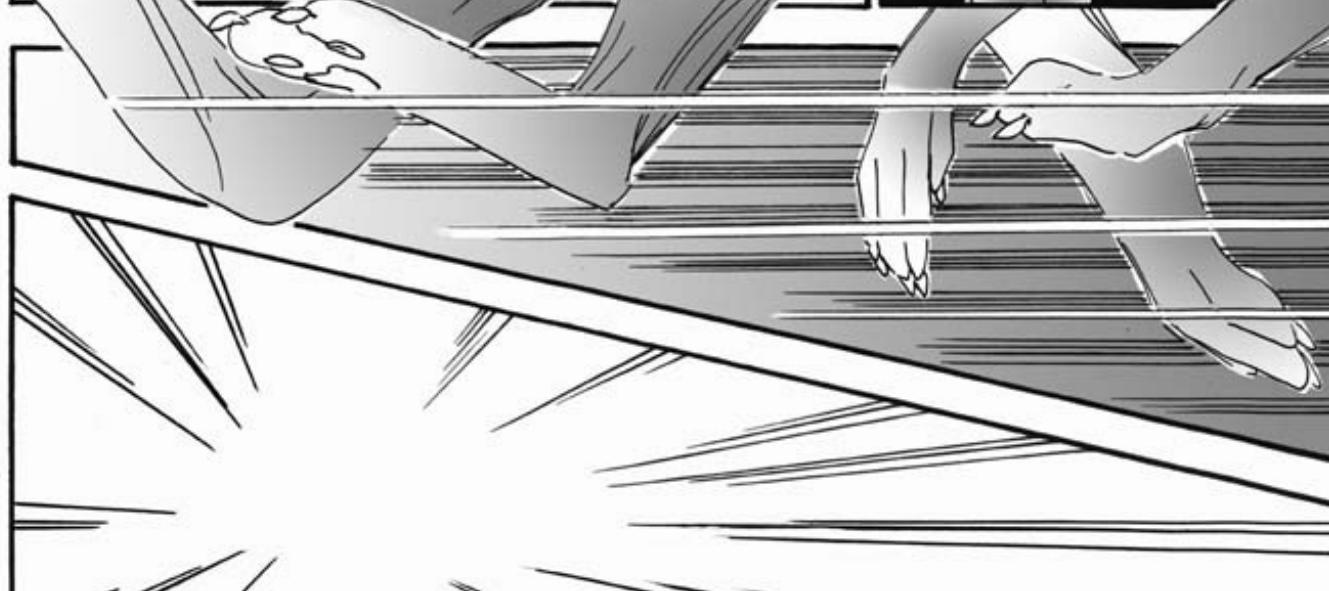


さあみんな！
ぼくを助けてくれ
首吊りにならない
ようにしておくれ



…兵士は
火打石を
打ちました

ひとつ
ふたつ
みつつ…！









今日はどう
やったんだ?

いや……
待てよ?
いつも本は
その場で選ぶ
じゃないか



さあ
これでいい
たまげたね
本丸々全部
かい?

ありがとう
ございます
ああホツとした



あの本以外を
客が選んだら
どうするつもり
だったんだよ

え……まあ
印刷の匂い
とか手触りで



兄貴は
覚えてるんだって
あの本箱の本
一言一句ぜんぶ

だーかーら!

ぜんぶ?



それにね

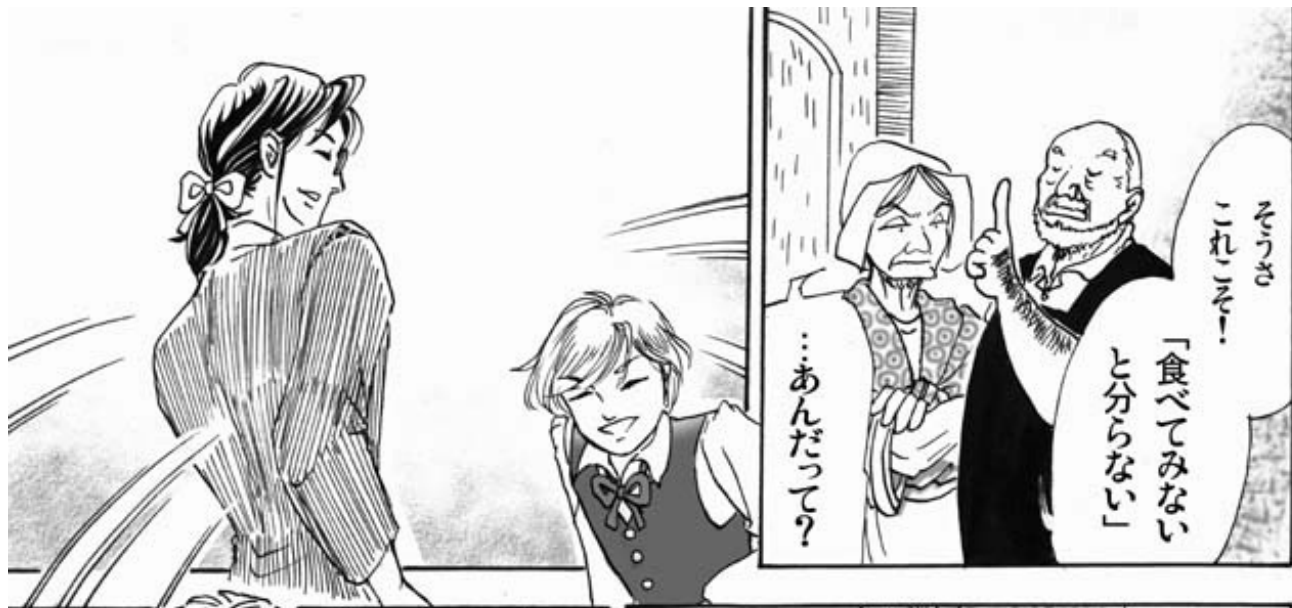


それだけに
頼ると
記憶が跳ぶほど
疲弊しますよ



……あんたが
エラく遠く
に見えるよ





10
9
8



さあ
男ども!

手を洗って
いらっしやい

いただきます!



『おとぎ話の神・24回』
読者といっしょにおとぎ話を



注：参考文献

『親指姫・アンデルセンの童話1』
福音館文庫

大塚勇三編・訳 一・S・オルセン画

「火打ち箱」より引用、漫画用に
一部改変させて頂きました。

あるでばらん亭・2

<http://p.booklog.jp/book/48902>

著者：風斗 碧

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/midorikazato/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/48902>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/48902>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.